

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

R5. 12実施

職員数17人

回答率100%

公表: 2024年 3月 19日

事業所名 関市中央親子教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100	0	・朝会で個別室の利用が重ならないようにしている。 ・活動内容に応じて、利用する部屋を考えている。 ・安全に遊ぶことができるように、活動内容にあわせて利用する部屋を考えている。	・今後も各部屋の利用予定の確認を朝会で行う。 ・各部屋を利用しやすいように整えておく。
	2 職員の配置数は適切である	47	53	・新規職員を毎年募集しているが応募がない。年度途中でも会計年度職員を募集している。 ・待機児が出ないように、療育回数を調整しながら対応している。 ・大学の講師依頼、学生のボランティアや見学、実習などを受け入れ、幅広く療育を知っていただく機会を作り、療育の仕事の啓発につないでいる。	・職員の雇用を継続していきたい ・療育という仕事の魅力を発信していく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100	0	・おもちゃを入れるかご、靴箱、荷物入れなど、写真やイラストを目印としてわかりやすくしている。 ・トイレ内のオムツ交換台が小さい場合に、150cmのベンチベッドをトイレ前に設置し利用できるようにした。 ・玄関からワークスペースに入る扉を、車いす等で出入りがしやすいように、引き戸にした。	・活動しやすい環境について、修繕等行いながら整備していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100	0	・感染症予防の為、入館時に手洗いをしている。 ・館内の清掃、ドアノブなど、手が触れたものや、口を付けたおもちゃについて毎日消毒している。 ・ほけんだよりで取り組みをお伝えしている。 ・子どもの特性や活動内容に合わせて、個室や広く体を動かすことのできる部屋など、利用する部屋を考えている。	・新型コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザ等、感染症対策を見直しながら継続していきたい。 ・子どもの特性や活動内容に合わせて、職員同士で確認し合いながら環境設定を行う。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100	0	・業務改善目標を全職員で共有し、定期的に振り替える機会を設けている。	・今後も継続していく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100	0	・事業所評価のほかにも、親の役員会や、定期的に行っている保護者面談、年度末に行っている「療育についての意向調査」にて、保護者の意向を聞き、対応を考えている。	・検討が必要な課題がある場合は職員会で検討し、業務改善に努める。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100	0	・自己評価表、保護者向け評価表の結果と改善内容を職員間で話し合っている。結果は、ホームページや施設内に掲示し、いつでも見られるようにしている。 ・月通信を通して、ホームページで公開していることなどを伝えた。	・評価表の結果を踏まえて、業務改善に努めたい。 ・今後もホームページで公開していることを掲示や口頭で周知する。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	53	41	・第三者による外部評価は受けていない。 ・運営委員会を年1回行い、事業内容や課題についてご意見をいただいている。 ・指導方法研究会を行い、講師の先生や外部の関係機関の先生方に療育に関する助言をいただいている。	・運営委員会を開催し、事業に関する課題を検討していきたい。 ・指導方法研究会への参加者や、ボランティアや見学者等、外部から意見を伺う機会を増やしたい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100	0	・講演会のように知識や技術を高める研修を受けて、伝達研修を行っている。また、実践研修として、指導方法研究会やケース検討会を開催している。	・研修を受けやすくするため、研修時間を確保する。引き続き、次年度の研修予定や研修計画を立てる。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100	0	・保護者、児童発達支援管理責任者、療育者と半年に一度面談し、アセスメント結果とともに、ニーズなどを踏まえて、計画を作成している。 ・療育者、児童発達支援管理責任者、相談支援員の3者で会議を行い、児童発達支援計画書を作成している。	・子どもの捉えや理解を深めるために、ケース会議、支援会議をする時間を計画的に確保する。 ・親子のニーズに沿った支援計画となるように努力していく。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100	0	・KIDS発達スケール、S-M社会能力検査、新版K式発達検査、TASP、田中ビネー知能検査、親子関係診断検査等、子どもの実態や保護者の要望に合わせ、年に1回は発達検査を行い、保護者と結果を共有している。	・多方面から客観的に把握できる検査の利用を検討する。今後も、アセスメントに関する研修を行う。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100	0	・保育園や幼稚園や他の事業所へ通っている場合は園等への訪問を行い、家庭、園の様子と合わせ、個々に合った具体的な支援内容となるよう、支援会議を開催している。 ・療育経過をもとに、目標設定を考えている。 ・児童発達支援計画の具体的な目標には、発達支援、家族支援、地域支援の各項目を設け、それぞれに応じた目標と支援内容を盛り込んでいる。 ・社会資源の活用や、園や学校との連携を、地域支援に取り入れている。	・より子どもの実態や、保護者のニーズに合った支援計画が作成できるよう、職員研修やケース会議を行っていく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100	0	・支援計画の目標、手立て、支援内容に基づいて療育を行っている。 ・日々の記録をつけ、支援計画と合わせて振り返り、見直しを行っている。PDCAサイクルができています。	・今後も、子どものニーズや保護者の意向を聞きながら個別支援計画を作成し、計画に沿った療育を行う。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	100	0	・個別的な活動については、保護者や、療育時間や場所を共有する療育者同士で話し合いをしている。 ・集団活動においては、事前にグループを決めて、話し合いをしている。 ・行事や活動ごとにリーダーを決め、担当チームで活動内容を検討し、目的や役割について職員全員で話し合い計画している。 ・活動後は振り返りを行っている。	・職員間で、積極的に意見を出し合い、様々な視点からプログラムを考えていくことを心掛けている。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100	0	・参加親子の実態に合わせ、季節ならではのあそびや、運動あそび、伝承あそびなど、保護者と情報交換したり、職員同士でアイデアを出し合いながら立案している。 ・活動後は振り返りを行い、次回につなげている。	・今後も職員間で活動内容について情報交換をしたり、あそびについて学ぶ機会を作り、柔軟な発想につなげたい。
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100	0	・子どもや保護者のニーズに合わせて個別的な活動を中心に、学年別や小集団での活動を計画している。	・個別的な活動と集団での活動、それぞれの活動目的や考え方、方法についてその都度職員間で話し合っていく。	

関係機関や保護者との連携	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100	0	・集団活動を行う際には、お互いの療育計画と役割分担を相談している。 ・活動の打ち合わせをし、当日さらに確認している。	・事前の話し合いや準備時間の確保がしやすいように、業務内容や勤務時間の使い方を検討する。 ・気付いたところは、お互いに声を掛け合うようにする。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	94	6	・活動の終了後に、子どもの様子や関わり方など、職員同士で意見を出し合い振り返りを行っている。反省点は、職員会等で報告し、記録を回覧して共有している。	・振り返りの時間の確保がしやすいように勤務時間の使い方を検討する。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100	0	・支援計画を確認しながら振り返り、記録に記載し内容を検討している。 ・個々の記録用紙に、支援終了後に療育内容を記入している。	・日々の記録の内容、書き方など、見直して改善できるようにしていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100	0	・半年に一度のモニタリングに合わせて、保護者と面談を行っている。面談は事前に保護者の意向や思いを記入していただいたシートをもとに、療育者と児童発達支援管理責任者で行っている。相談支援専門員の意見も聞きながら計画の見直しを行っている。	・今後も面談を半年に1回行い、支援計画や療育内容の見直しを行う。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100	0	・療育者や児童発達管理責任者、園の担任や加配保育士、保護者、相談支援専門員、学校関係者などが、子どもと保護者のニーズや状況に合わせて参加している。	・今後も引き続き、対象となる親子に合わせて、参加する職員を検討していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100	0	・保健センターの健診に参加したり、親子の状況に合わせて、家庭児童相談室、他の児童発達支援事業所等と連携をとっている。	・今後も必要に応じて様々な関係機関と連携をとっていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100	0	・必要に応じて医師や、保健センター、ポップの家、他の児童発達支援事業、園、家庭児童相談室、学校教育課、各学校、重症心身障がい在宅支援センターみらいなどの関係機関と連絡をとりあい、情報を共有したり支援方法を考えていく。 ・支援会議に参加している。	・今後も連携が必要な関係機関や、連携の方法、内容等について検討していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100	0	・必要に応じて病院の地域連携室と連絡を取り、主治医の指示を仰いでいる。 ・必要に応じて病院の受診時に同行したり、子どもの療育経過の報告書を作成し、情報提供している。	・引き続き個々に合わせて、医療機関との連携の仕方、内容について検討していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100	0	・入園前に園の見学や相談などに同行している。保護者の同意の上、個別支援計画の経過報告をもとに引継ぎを行っている。 ・入園後は園訪問を行ったり、子どもの様子や関わり方など情報交換を行う機会を持つようになっている。 ・特別支援学校の幼児教室や幼稚部等と、必要に応じ連絡を取りあっている。	・通所児と保護者が安心して入園、入学を迎え生活していけるよう、今後も情報提供や連携を取り、継続したサポートを行っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100	0	・保護者のニーズに応じて、学校見学や学校との相談、懇談を行っている。また、子どもの実態について、学校、放課後等サービスへ引継ぎを行い、相互理解に努めている。 ・就学相談会や就学までの諸手続きの流れなどを保護者に紹介するなど、情報提供を行っている。	・親子ともに安心して学校に通えるよう教育委員会や学校と連携をとっていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100	0	・他施設の研究会や研修に参加している ・外部研修やオンライン研修を利用している。 ・指導方法研究会を開催し、市内の関係機関の先生方に来ていただいたり、岐阜大学の先生に来ていただき、療育について指導助言をお願いしている。	・職員が研修に参加できるよう日程を調整し研修を行っている。学びについて意見交流するなどし、資質向上に努める。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	94	6	・園に在籍している子どもが多く、療育の中で他の園の子どもと同じ時間帯であそびを共有したり、グループで活動するなど交流する機会を設けている。 ・未就園の子どもについては、園を見学したり、園庭であそばせていただいている。	・今後も、様々な子どもと関わりが持てる機会を作るよう努める。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100	0	・内容に合わせて参加する職員を決めている。職員会で報告を行っている。	・今後も会議等に参加した職員が報告を行い、職員間で共有していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100	0	・療育に参加していただきながら、子どもの様子や、関わりについて一緒に考えている。 ・交換ノートややりとりで、家庭での様子や保護者の思いなどを聞いている。また、療育で見られる子供の変化や子どもへの関わりを保護者と共有し必要に応じて面談の時間を設けている。 ・療育に入る前に、個別支援計画に目を通すようになっている。	・親子に合わせた伝え方や、一方的な伝達にならないよう、どのような伝え方がよいのか、また、保護者の子どもへの思い、課題等について、どのように聞き取りをするとよいか、など検討する。 ・特に、外国籍の方は、日ごろの連携の取り方や面談の内容を検討していく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100	0	・家庭で取り組めそうなことを保護者と一緒に考えている。 ・療育の中で、保護者と子どもへの支援方法を考えている。 ・内部研修やペアレント・トレーニング等の研修に参加し、職員間で共有している。 ・保護者が参加できる研修の案内を知らせている。	・親子療育やペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムについて、職員が知識を持ち、必要な療育や支援を考えていく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100	0	・重要事項を説明する時や契約の説明をする時に行っている。 ・施設内に常時、掲示している。	・今後も利用開始時の説明に合わせて、一年に一度再確認できるよう努める。また、保護者がわかりやすい説明の仕方を考える。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100	0	・面談時に課題と意向を把握し個別支援計画を作成する。作成したものを保護者に見ていただきながら説明している。保護者に同意を得てサインと押印をしていただき、同意を得ている。	・引き続き保護者とニーズや療育の内容を話し合いながら、計画を立てていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100	0	・半年に一度の面談には児童発達管理責任者が同席している。療育時間以外にも必要に応じて面談を設けている。 ・ノートを活用したり、家庭での出来事を聞いたり、保護者の表情などから思いを汲み取り、職員から声をかけるよう心掛けている。	・今後も、定期的に保護者との面談の機会を作り、相談に応じていく。 ・保護者が相談しやすい雰囲気づくりや職員との信頼関係づくりを大切にしたい。

保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年10回親の会の役員会が開かれ、職員が託児を行ったり、会に参加している。 ・役員会の時間を利用し「入園について」などテーマを設定した情報交換会や「先輩お母さんの話を聞く会」「交流会」を実施している。 ・親の会の活動内容は、役員会の報告書や掲示を通して全保護者に報告している。 ・行事の準備は、保護者とともに保護者同士の交流がもてるように取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の会活動について分かりやすく、見やすい掲示を工夫したり、保護者とともに活動内容を考えるなど、親の会活動を支援していく。 ・親の会とともに、保護者のニーズに合わせて交流できる機会や方法を考えていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・相談の申し入れがあった場合、療育時間以外にも時間を設けて対応している。 ・その場ですぐに対応できない内容に関しては、職員間で相談を行ったり、相談支援専門員、児童発達支援管理責任者、所長などに報告し対応している。 ・関係機関と迅速に連携を取るようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時相談に応じていく。 ・保護者の方から相談を申し入れやすい関係、環境を日頃から作っていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・月通信や読み物を作成・掲示し、行事予定や報告、療育内容、子育てに関する情報を発信している。 ・保護者や子どもがイメージしやすいように、写真を用いて作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示内容を口頭でも保護者に伝え、保護者の悩み事や関心事に合わせて、担任と話す機会も作っていく。 ・通信や連絡は、スマートフォンのアプリの活用を検討している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援利用契約書第7条-3に基づいて対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も個人情報の取扱いに十分に注意していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態に合わせてイラストなどを利用し、見てわかりやすいように情報提供をしたり、活動の流れが理解しやすいよう、歌やダンスを取り入れるなど配慮している。 ・外国籍の方については、ひらがなやローマ字の使用、カレンダー、翻訳アプリを活用したり、市の通訳士をお願いしている。 ・子どもの気持ちを理解するための配慮について職員間で学びあっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員が配慮している事柄について、職員間で情報共有し、意思の疎通や情報伝達のために何が必要か検討していく。
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	94	6	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、市民ボランティアの協力を得ることや、福祉フェスティバルの中止など、地域住民との交流の機会が少なかったが、図書館や買い物、散歩やザリガニ釣りなど社会資源を活用した療育の中で、地域の方々と交流する機会を大切にしている。 ・運営委員会に委員として、地域住民や保護者に参加してもらっている。 ・地域の農家さんからいただいたお米を使った活動をして、写真や感想を送って交流している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を行いながら、地域住民の方との交流など、どのような活動が可能なのか検討していく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯だより、防災だよりを作成し、保護者に配布・掲示している。 ・防災マニュアルは誰もが閲覧できるように掲示してある。 ・感染症対策として、月に1回ロールプレイなどの訓練を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時見直し、保護者に周知できるよう、取り組んでいきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、火災、水害土砂、不審者対応の訓練を実施している。 ・通所児全員の参加は難しいが、事前に実施日を掲示したり、訓練の様子を掲示して、通所児全員に報告している。また、避難方法については、防災だよりを作成し、年度初めと通所開始時にお伝えしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き訓練日時や訓練方法を事前に掲示で知らせ、周知をしたり参加を呼び掛けていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・来所時に体調の確認をしている。 ・医療的ケアの有無などについては通所開始時に、基本情報と同様に保護者に確認している。 ・服薬は、保護者に管理していただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変更がある場合は、療育の際に申告していただいたり、面談時に確認している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に病院での検査結果や診察の様子を聞き、それに基づいて対応している。 ・保護者に食材や調味料等を確認してもらっている。 ・朝会等で、職員全員が把握するようになっている。 ・アレルギーに関わらず、今までに食べたことがあるかなど、保護者に確認を随時とっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き職員間で情報を共有したり、調理員と連携をとっていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例集を作成し、職員会で報告して情報共有している。また、事例について職員で話し合い、再発防止に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も報告と合わせ、検証、予防対策について職員間で検討していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて家庭児童相談室など他機関と連携を取っている。 ・県の虐待防止研修に参加し、全職員へ伝達研修を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続していく。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100	0	<ul style="list-style-type: none"> ・切迫性、非代替性、一時性について、また、行動障害、迷惑行為などの基本的な対応マニュアルについて、職員間で研修を行った。 ・全国保育士会の人権擁護のためのセルフチェックの読み合わせを行った。 ・必要な場合、保護者の同意を得て、個別支援計画に記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から状況を把握したうえで想定し、対応を職員間で話し合い、周知していく。 ・個別支援計画に想定される対応について反映していく。 	